

4

**たし算・ひき算の筆算 ②**

月

日

**1** 左がわの筆算のたしかめをします。右がわの筆算の□にあてはまる数を書きましょう。

①

$$\begin{array}{r} 45 \\ - 24 \\ \hline 21 \end{array} \Rightarrow \begin{array}{r} 21 \\ + 24 \\ \hline 45 \end{array}$$

②

$$\begin{array}{r} 57 \\ + 36 \\ \hline 93 \end{array} \Rightarrow \begin{array}{r} 93 \\ - 36 \\ \hline 57 \end{array}$$

**2** □にあてはまる数を書きましょう。

①

$$\begin{array}{r} 12 \\ + 4 \\ \hline 59 \end{array}$$

②

$$\begin{array}{r} 46 \\ + 2 \\ \hline 70 \end{array}$$

③

$$\begin{array}{r} 27 \\ + 34 \\ \hline 61 \end{array}$$

④


$$\begin{array}{r} 25 \\ - 1 \\ \hline 11 \end{array}$$

⑤

$$\begin{array}{r} 51 \\ - 42 \\ \hline 9 \end{array}$$

⑥

$$\begin{array}{r} 75 \\ - 47 \\ \hline 28 \end{array}$$



くり上がりやくり下がりに気をつけよう。

**3** ひかるさんとあかりさんがゲームをしています。1回目に、ひかるさんは18点、あかりさんは33点とりました。2回目に、ひかるさんは29点とりました。

① 1回目に、あかりさんはひかるさんより何点多かったですか。

しき

$33 - 18 = 15$

答え

15点

筆算

$$\begin{array}{r} 33 \\ - 18 \\ \hline 15 \end{array}$$

② 1回目と2回目を合わせると、ひかるさんは何点とったでしょう。

しき

$18 + 29 = 47$

答え

47点

筆算

$$\begin{array}{r} 18 \\ + 29 \\ \hline 47 \end{array}$$

③ 1回目と2回目を合わせたら、ひかるさんとあかりさんは同点になりました。あかりさんは2回目に何点とったでしょう。

しき

$47 - 33 = 14$

答え

14点

筆算

$$\begin{array}{r} 47 \\ - 33 \\ \hline 14 \end{array}$$

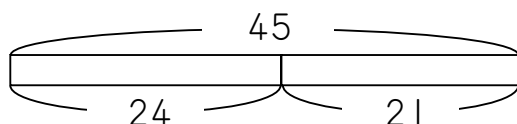
### 今回の学習のねらい

- ・筆算（2桁±2桁まで）の理解を深める。
- ・たし算とひき算の関係を確認する。

### アドバイスと支援のポイント

**1** は、たし算とひき算の関係と、それを利用した検算の仕方を確認する課題です。左側の筆算にあって右側の筆算にはない数を探せば答えは出ますが、それが具体的に何を意味しているのか、下のような図をかいて示してあげるとよいでしょう。

【図（①の場合）】



**2** は、筆算の理解を深めることが目的の課題です。たし算とひき算が裏返しに関係にあること（**1** で復習した内容）を学んだあとでは、例えば⑤を「 $9 + 42 = 51$ 」と考えて解けるお子さまもいるかもしれませんが、それは上級学年の学習内容にあたります。ここでは、筆算の手順ののっとって位ごとに計算をし、必要があれば、上の位に繰り上げたり、上の位から繰り下げたりしながら解く方法で進めていきましょう。

**2** で難しいのは、繰り上がりや繰り下がりを含む場合です。まず、②では、「6に“ある数”をたして0になるということはない。」という気づきから、「これは“0”ではなく“10”なんだ。」と発想します。そして、十の位が「 $4 + 2 = 6$ 」よりも1大きい「7」になっているのを見て、これは繰り上がりのあるたし算であることを確認します。⑤も同様で、2をひいて9になる1桁の数はないことと、十の位が「 $5 - 4 = 1$ 」よりも1小さい「0」（欠位）になっていることから、これは繰り下がりのあるひき算であると判断します。③と⑥も、位ごとに見ていくという基本的な考え方は同じです。ただし、③と⑥の場合、一の位の計算を考えずに十の位だけを見て解くと、③は「 $2 + 4 = 6$ 」、⑥は「 $6 - 4 = 2$ 」と誤ってしまうので、いっそうの注意が必要です。まちがえている場合には、「□にその数を入れて筆算したら答えが合うか、確かめてもらえ。」と声をかけてください。